



か つ き

志布志市立香月小学校



家庭と学校の両輪で確かな^{わだち}轍を残したい

校長 中條 健一郎

授業中、各学級を訪問する。どの学級も真剣な眼差しで、先生を見つめる子どもたちの姿がある。そこには、張り詰めた空気が漂い、凜とした授業がなされている。どの教室も、背筋がぴーんと伸びる。自分たちの考えを出し合いながら「こうだったらどうだろうか・・・」



と先生と子どもたちが共に授業を作りながら話し合い活動を行っている。これまで、基本的な学習習慣を身に付けさせることに、全職員で取り組んできた。その姿が授業に表れてきている。

しかし、真の学力が身に付くまでには至っていない。子どもたちには、大人になるまでに社会に必要なものを、しっかりと身に付けさせなければならない。様々な物事を考える為の基礎となる学力、様々な困難に立ち向かえる体力・気力、様々な人と交わり共に生活していくための豊かな心は欠かすことができない。まずは、学校で学んだことがしっかり

定着することが大切だ。そのためにも、家に帰ってから、机の上で復習する家庭学習の習慣を身に付けさせることが必要である。これまで、家庭の協力を得ながら少しずつ家庭学習の習慣が身に付きつつある。しかしながら、低学年30分、中学年60分、高学年90分の目標には、まだ大きな隔たりがある。家庭学習は、自分で学習していく主体的な取組でもある。質の高い、確かな学習時間を確保したいものである。

これから進むべき中学校、高校入試、入社試験、大学入試と大人になるための関門が立ちはだかっている。その日はそう遠くない。小学校で培われた力は必ずや役に立つ。子どもたちが大人になるまでに、しっかりと身に付けるべきことを学校と家庭で両輪の轍を刻むがごとく、共に身に付けさせていきたい。



**覚えたことはいつか忘れるが、
身に付けたものは一生忘れない**

こんな6年生に

今月の音楽集会は、6年生の発表でした。「ラバースコンチェルト」の合奏と、嵐のハピネスのメロディーに乗せて、「こんな6年生になりたい」の思いを歌詞にしたの合唱でした。

香月小の最高学年として、「低学年の手本になりたい。」

「物事に全力で取り組む」等、気持ちのこもった元気な歌声でした。



大きなあれ！

1年生が植えた、アサガオの双葉が出ました。観察をしながら、「早く大きなあれ。」「どんな花が咲くかな。」と期待に胸をふくらませている子どもたちです。植物を育てる活動を通して、自他の生命を大切に作る心情が育っていくことを願っています。

